

令和6年度 府中市立府中第三中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	○1学期の定期考査の正答率から分析すると、知識・技能の正答率が低い。読解問題においては、記述問題の正答率が低く、問題に対して適切に解答できていないケースが見られる。特に説明的文章の読解・記述における正答率が低い。	○漢字や語彙、文章の型など、繰り返し学習させて身につけさせる。 ○グループ活動の時間を設け、他者と考えを交流することで、自身の考えを広げたり深めたりし、またどのように表現するかを他者から学ぶ機会を作る。【対話・表現】		
数学	○数学を、単に計算をする教科と捉えていたり、将来生活する上では必要のないパズルのようなものと考えていたりする生徒が多い。したがって、小学校の算数から苦手な生徒にとっては学習意欲をもちづらく、授業規律の低下にもつながっていると考え。	○日常生活との関連を意識しやすい教材を使用して、協働的・探究的な授業を実施することで、数学の学習内容を、生活の中のものに関連付けて考える力を付けさせる。【対話・発見・表現・決定】 ○支援員と協力しながら、数学が苦手な生徒に必要な支援をしていく。とりわけ、小学校での既習事項を含む基本的な計算能力を身に付けさせる。【決定】		
理科	○生徒が考えをまとめ、発言したり、文章で表現したりすることに課題がある。 ○既習事項と新しい学習内容を関連付けることが苦手な生徒が多く、既習事項をしっかり定着させる必要がある。 ○実験の作業は多くの生徒が積極的に参加しているが、実験結果を正しく文章で表現できていないことから、実験から得た結果を科学的に表現させる指導が不足している。	○実験の振り返り以外にも、実験前に原理の説明を加えたり、探求活動の時間を充実させたりする。【決定・表現】 ○学習内容を既習事項や身近な自然現象と結び付けさせることで、新たな学習内容へ関連付けようとする意識を高めさせる。【発見】 ○実験の振り返り時に、各班等で話し合いの時間を設ける。【対話】		
社会	○授業中には多くの発言があるが、定期考査の結果を見ると、学習内容の理解度は個人差が大きい。(課題①)。 ○自分の考えを自分の言葉でまとめたり、考えたことや話し合ったことを表したりすることが苦手な生徒は多い。(課題②)。	○課題①②の改善に向けて、重点項目であるICTの活用を通して生徒の社会的事象への関心を高める。【発見】 ○重点項目であるグループ活動の頻度を増やし、話し合いや教え合い活動を通して考えを深める機会を増やすことで、自分の考えをまとめたり、表現したりする力を育てる。【対話・決定・表現】 ○以上の活動を通して学習内容の理解の深化を図る。さらに単元ごと的小テストを実施する。		
音楽	○実技については前向きに歌う姿勢が見られる。変声期にも配慮しながら、よりよい発声で歌えるようになることが課題である。 ○生徒が自分たちでパート練習を進められるようにすることが課題である。	○常に響きのある声で歌うことを意識させ、授業の様々な場面でもよい例を褒め、自信を付けさせる。【対話・表現】 ○自分たちでパート練習を進めるという形をまずは定着させられるように、毎回振り返りをしながら、自分たちでできたという経験を重ねてさせていく。【発見・対話・表現】		
美術	・学んだ美の要素や技法の美しさを感じ取り、表現の工夫を自分なりに試行錯誤したり、追及したりしながら描くこと。 ・授業での学習内容の用語を使い活用したりすること。	・授業の導入で短時間、参考になる生徒の作品を紹介する。また、生徒同士の話合いにより課題に向けた考えを広げる。【対話・表現】 ・美術の記録に美術の用語を活用し記入させる。参考の資料や動画などを提示する。【発見・決定・表現】		
技術	○製図学習において、定規を使って正確な直線を引く等、手を使った技能面で経験不足が目立った。 ○コンピュータにおいては小学校時代の活用経験が豊富であるが、学習領域の特性もあり、授業で活用させる機会がほとんどなかった。	○工具を使う練習の時間を確保する。実際の製作実習においても実習時間を多めに確保し、じっくり製作に取り組ませる。【表現】 ○実習終了後に、作品のデジタル作品展を行う等、コンピュータの特性であるネットワークを生かした活用を行う。		
家庭	○発言も多く、授業を意欲的に受ける姿勢が見られる一方、知識を定着させて定期考査などの実践問題に生かすことに課題がある。	○毎時間、授業の導入部分に、前時で学習した内容のミニテストをクイズ形式で取り入れ、知識の定着を図る。【発見】		
保健体育	・自らの課題や、仲間の課題を正確に発見し対話しながら改善に向かうこと。 ・自分の動きを、自分自身で正確に把握すること。	・見つけた課題を仲間同士で共有しあう時間を授業内で意識的に作る。【対話】 ・動きのポイントを示した学習カードや動画撮影の充実を図る。【発見】		
外国語	・小学校での既習内容の定着の差や、それによる英語に対する関心・意欲の差が大きい。 ・ライティングにおいて、正確に単語や文を書くことが困難な生徒が目立つ。	・帯活動やワークシートを用いて、既習内容を復習する機会を多く設けていく。【対話・表現】 ・授業の中でスピーキング活動をした後、ライティング活動につなげていくことで、自然と書くことに対する抵抗感をなくしつつ、機会をより多く設けていく。 【表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和6年度 府中市立府中第三中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	○1学期の定期考査の正答率を見ると、知識・技能、読解問題において、選択問題に比べ、記述問題の正答率が低い。特に説明的文章の読解・記述における正答率が低い。	○記述の「型」を示し、表現におけるひな型を身につけさせる。 ○グループ活動の時間を設け、他者と考えを交流することで、自身の考えを広げたり深めたりし、またどのように表現するかを他者から学ぶ機会を作る。【対話・表現】		
数学	○文字を含む式の計算ができる生徒は多いが、文字を使って数量を式に表すことは苦手である。 ○三角形の合同の証明で、論理的かつ順序立てて証明を記述することが苦手である。	○1つの数量を、加減乗除様々な方法で表せる教材でグループワークを実施し、1つの文字式に帰結することを示して理解を促したい。【発見・対話・決定・表現】 ○結論を導くために適した合同条件と、その材料を考える時間を多くとり、それを順序立てて言葉や式にする指導を丁寧にしていきたい。【決定・表現】		
理科	○既習事項と新しい学習内容を関連付けることが苦手な生徒が多く、既習事項をしっかり定着させる必要がある。 ○実験の作業は多くの生徒が積極的に参加しているが、実験結果を正しく文章で表現することに課題がある。	○既習事項を、身近な自然現象と結び付けさせることで、新たな学習内容へ関連付けようとする意識を高めさせる。【発見】 ○実験前に原理の説明を加えたり、実験の振り返り時に、各班等で話し合いの時間を設け、実験から得た結果を科学的に表現させる指導を充実させる。【対話・決定・表現】		
社会	○授業アンケートの結果から、自分の考えたことや話し合ったことを表したりする機会が少ない。 ○学習内容を理解しているが、知識を定着させて定期考査などの実践問題に生かすことに課題がある。	○班での調べ学習や意見共有の時間を授業時間内で意図的に増やす。【発見・対話・決定・表現】 ○復習課題やICTを活用したクイズ等を活用して、知識の定着を図る。【発見】		
音楽	○1年間の積み重ねにより、正しい発声法で歌える生徒が増えてきている。より良いハーモニーで歌えるようになることが課題である。 ○生徒が互いに意見を出し合い、パート練習を進めることができていく。練習内容を充実させていくことが課題である。	○生徒代表（声リーダーたち）が中心となって発声練習を行い、自分たちの力で合唱を盛り上げていく意識をもたせる。【対話・表現】 ○生徒代表（パートリーダー）がリーダーシップをとり、コミュニケーションをとりながらパート練習を進められるようにする。【発見・対話・表現】		
美術	・制作では最低限の課題の取り組みに留まる生徒が多く、表現方法を試行錯誤するまで到達していない。 ・資料を見ながら描くことが苦手な生徒がいる。	・授業の導入で短時間、参考になる生徒の作品を紹介する。また、生徒同士の話し合いにより課題に向けた考えを広げる。【対話・表現】 ・描き方の動画や参考資料を提示する。また個別指導や毎回の授業での作業内容と進行状況の確認を全体で行う。【発見・決定・表現】		
技術	○調べ学習や製作実習においては個別学習中心であり、話し合い活動の時間が充分にとられていない。	○各領域の学習のまとめとして、話し合い活動を通して理解を深める場を設ける。【対話】		
家庭	○被服製作では最低限の課題の取り組みに留まる生徒が多く、より良いものを作りたいという貪欲さに欠ける生徒が多い。	・授業の導入時に生徒の作品を紹介する。また、作品展示を行い、授業の中でお互いの作品を評価する場を設け、生徒同士の話し合いにより課題に向けた考えを広げる。【対話・表現・発見】		
保健体育	・自らの課題や、仲間の課題を正確に発見し対話しながら改善に向かうこと。 ・自分の動きを、自分自身で正確に把握すること。	・見つけた課題を仲間同士で共有しあう時間を授業内で意識的に作る。【対話】 ・動きのポイントを示した学習カードや動画撮影の充実を図る。【発見】		
外国語	・英語に対しての関心・意欲の差が大きい。 ・ライティングにおいて、正確に単語や文を書くことが困難な生徒が目立つ。	・帯活動やワークシートを用いて、既習内容を復習する機会を多く設けていく。【対話・表現】 ・授業の中でスピーキング活動をした後、ライティング活動につなげていくことで、自然と書くことに対する抵抗感をなくしつつ、機会をより多く設けていく。【表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和6年度 府中市立府中第三中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	①「全国学力・学習状況調査」において、「話すこと・聞くこと」の正答率が都の平均と比べるとやや低い。 ②要点を整理したり、構成を意識したりして話すことや文章にまとめることに課題がある。	①関心のあるテーマについて発表する活動や、他者の発表を聞く活動を増やし、評価の視点を示して振り返りを行う。【発見・決定・対話・表現】 ②記述や構成の「型」を意識し、繰り返し練習する時間を設ける。【表現】		
数学	○文字を含む式の計算ができる生徒は多いが、思考判断などの文章題など読み取り表現することを苦手とする生徒が多い。 ○説明や証明など6行証明8行証明など形式が定まっていることは問題ないが、そこを基準に活用させていくことなど応用を利かせていくことは難しい。 良くも悪くも、その場における努力はするものの短期記憶に近い状態であるのは大きな課題である。	○グループワークを実施し、思考解決型学習で順にヒントを与えていくことで、文章題など読み取りを必要とする分野において、解の判別などを通して理解を促し、互いに説明しあうことで定着を図る。【発見・対話・決定・表現】 ○結論を導くための相似条件を、図の中からわかる根拠を探す時間を大きく割り、順序立てて書き出しや根拠、条件の当てはめなど基本を確立し、結論につなげていく過程を確立できるように反復させ、定着を図っていく。【決定・表現】		
理科	①基礎的な知識や計算問題の定着が不十分な生徒が見られる。 ②実験の結果を科学的に分析して記述することが苦手な生徒が多い。	①授業の最初に小テストをこまめに行いある程度、量がたまったところで小テストをまとめたテストを行うことにより基本を徹底させる。計算問題は生徒自身に教え合わせる時間をつくる。【対話・表現】 ②生徒自身が書いたA評価とC評価の、考察を名前を伏せて提示し、どこに差が出るのか議論する時間を実験もまとめでつくる。【決定・表現】		
社会	○授業内での発言をする生徒に偏りがあり、積極的な授業参加の姿勢が見られない生徒が見られる。 ○文章で表現する能力に差があり、問われたことに対して正しく簡潔に表現することができない生徒がいる。	○生徒一人一人の考えをグループワーク等で共有する時間を増やす。【対話・表現】 ○ICT 機器を活用して、画像や動画等を見せ、イメージを持たせることで分かる授業を展開していく。【発見】 ○生徒同士の教えあいやペアワークなど主体的な活動を増やし、音声や文章で自分の考えを表現する場を増やす。【対話・表現】		
音楽	○毎時の発声練習や既習曲を歌う場面で、積極的に声が出せない生徒が多かったが、1、2年の積み重ねにより、正しい発声法で歌える生徒が増えてきている。より良いハーモニーで歌えるようになることが課題である。 ○生徒が互いに意見を出し合い、パート練習を進めることができている。練習内容を充実させていくことが課題である。	○毎時の発声練習で行う「こんにちは合唱」や「歓喜の歌」で、常に4声のハーモニーを意識させ、合唱曲に生かせるようにする。【表現】 ○練習後の反省会や自己評価シートの活用で練習内容を振り返り、次回の授業に生かせるようにする。【発見・対話・表現】		
美術	・発想・構想時に自分の思いや考えを言葉にまとめられない生徒または、図や絵に表すのが困難な生徒が見られる。 ・作品鑑賞時のグループでの対話で話が広がらないグループがある。	・生徒同士の話し合いにより課題に向けた考えを広げる。また、個別指導や毎回の授業での作業内容と進行状況の確認を全体で行う。【対話・表現】 ・話すテーマや方法を明確し、プリントにも他者の意見を色ペンなどで記入させ、対話に意識を高めさせる。互いの途中作品への助言をする。【対話・表現】		
技術	○授業時間数が絶対的に少ないため、題材やレポートを作成することで精一杯であり、話し合い活動の時間がとられていない。	○授業時間数上の制限があるので、3年間の学習のまとめにおいて話し合い活動を実施し、多面的な学習のまとめを行う。【対話】		
家庭	○授業アンケートの結果から、自分の考えたことや話し合ったことを表したりする機会が少ない。	・授業の導入時に生徒の作品を紹介する。また、作品展示を行い、授業の中でお互いの作品を評価する場を設け、生徒同士の話し合いにより課題に向けた考えを広げる。【対話・表現・発見】		
保健体育	○生徒同士の ICT を活用した成果と課題の発表や教えあいをさらに活発にさせることが課題である。 ○自分や仲間の動きを、比較して分析したり、正確に把握したりすること。	・見つけた課題を仲間同士で共有しあう時間を授業内で意識的に作る。【対話・表現】 ・動きのポイントを示した資料や動画撮影の充実を図る。【発見】		
外国語	・様々な形態の会話活動を行っているが、既習単語や文法が定着していない生徒がいる。 ・長文読解や意見英文作文が苦手な生徒が多く、既習事項のアウトプットがあまりできていない。	・自分の意見を伝える活動を多く設け、既習単語や文法を復習する時間をつくる。【対話・表現】 ・定期的に長文問題に取り組み、進め方や解き方を指導する。また自由英作文や意見文を書く機会を設ける。【表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。